

創設 130 周年に向け、地域市民と共に今動き出す

# 大牟田天領病院だより vol.6

第16回

## 大牟田天領病院 学術集会 開催

大牟田天領病院学術集会は、昨年から連携施設からの演題も募集しています。今年は、「あすなるの樹」から演題発表をいただきました。今後も連携施設と協力をして地域包括ケアに貢献して行きます。

### 《特別講演》

今回の特別講演は、熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学の辻田賢一教授から、「病診・病病連携で取り組む急性冠症候群の緊急カテーテル治療と高齢者心不全」のタイトルで講演をいただきました。

中核病院には、緊急心臓カテーテルにて急性冠症候群に対応できるシステムが構築されていますが、重症で危険が伴う症例では、ドクターヘリを利用して熊本大学病院に移送し、特殊なカテーテル治療を実施していることが紹介されました。特殊な緊急カテーテル治療として、1)動脈硬化の高度な冠動脈の狭窄にはローターブレード（先端にダイヤモンドをちりばめた高速回転ドリルカテーテル）にて冠動脈の血流を改善させる治療、2)CTO (chronic total occlusion：冠動脈の完全閉塞)に対する順行性カテーテルとバイパス経路からの逆行性のカテーテルによるステント留置冠動脈再開通術により心機

能が改善し、予後が良くなるという新しい治療法、を紹介されました。冠動脈カテーテル治療により冠動脈の血流が改善する機序として、ミトコンドリアの機能が回復すると共にケトン体が利用できるようになり心機能が向上することが示されました。高齢患者では、アミロイドの沈着による大動脈弁狭窄が誘発され TAVI(経カテーテル的大動脈弁植込み術)の適応になるとともに、心筋への沈着もおこり慢性心不全の原因になることが示されました。

現在、患者数が増加している慢性心不全に対して、advanced care plan を患者・家族に提示するとともに、多施設による機能別ケアシステムを構築して治療への取り組みが紹介されました。

辻田教授は、心疾患の最前線の診療から、慢性心不全の長期管理まで、中核病院や関連病院のネットワークを創り、幅広い貢献をされています。大牟田天領病院もこのネットワークの一つの病院として有明地域に貢献しようと考えています。



熊本大学大学院  
生命科学研究部 循環器内科学  
教授 辻田 賢一 先生  
(つじた けんいち)

### 《連携施設発表》

今回、「あすなるの樹」、「ふじさわクリニック」と大牟田天領病院による地域包括ケア活動として、「病在合同によるデスクンファレンスの意義」のタイトルで発表をいただきました。この学術集会で初めての連携施設からの発表で地域包括ケアの重要性を教えてくださいました。次回も連携施設からのご発表をお待ちしています。

